

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や語彙、情報の扱い方等について、習得に個人差が目立つ。 文章を正確に読み取る力の伸びに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自が自分の力や特性に合わせて効果的な練習ができるように指導していく。 指導者も新しい語彙や表現を意図的に使用し、「日常化」を促す。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して自分の考えをもつことが難しい児童が見られる。 自分の考えを文章化して表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言だけでなく、様々な手法で表現する方法を授業の中で取り入れていく。 友達の書いた考えを共有し合うことで、その内容だけでなく表現の仕方も学び合えるようにする。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組み、楽しく学ぶ姿が見られる。「書くこと」に対する苦手意識をもっている児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の見通しがもてるような導入の工夫をし、「やってみたい」「これはできそうだ」という思いを喚起させる。 「書くこと」については、日常的に文章を書く活動を取り入れ、抵抗感を提言していく。
社会	知識及び技能	現在の政治の様子や、歴史の流れなど、社会的事象を捉えている児童が多い。調べることがらについて自分で資料を見つけることに課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> 資料から分かることを自ら読み取る機会を増やす。 児童が実感をもって理解できるよう、視覚的な写真資料や映像資料を積極的に活用する。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 政治の様子や歴史の流れを捉え、複合的な視点から考え、友達と交流できる児童が多い。 考えたことをまとめ、表現することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法で表現することができるようにする。 既習の内容や年表など、歴史の経過を意識できる内容を重点的に考えさせるようにする。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に高い意欲で学習に向かっている。 児童にとって身近に感じにくい内容が多く、意欲をもてない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ」「どのように」など、課題意識をもたせるために、児童が歴史や政治について、自分事として捉えられるような資料を効果的に提示する。 予想をもとに調べ考える学習過程を意識する。
算数	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本は概ね定着している。 課題のある児童には個別指導が必要。 自ら数直線を使って、考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> レディネステストできていない既習に関しては、単元に入るまでに復習しておく。 数直線指導を、どの学年、コースでも指導できるように、校内で指導方法を揃えていく。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 既習を活用して、解決することが苦手な面が見られる。 答えを出すことはできるが、考えを論理的に表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもてるような時間の確保をする。 答えを出すことではなく、そのプロセスを重視する学習を進めていく。 必要に応じて既習内容を丁寧に再確認する。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に、粘り強く学習に取り組める児童が多い。 間違いを恐れ、考えを表現することを避ける児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導の特性を生かし、個別の理解度や能力に応じた課題やヒントを提示していく。 多様な思考を価値づけ、互いに認め合う学習環境を整えていく。
理科	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の手段として、適切に実験・観察を行うことができる児童が多い。 知識の定着度に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識や技能として身に付けるために「教えること」と「考えさせること」を整理して指導する。 実験方法を工夫することで、全員が同じ経験をできるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 事象を科学的に捉え、考えることに慣れてきている。 結果に基づく考察し、表現することが苦手な児童が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題に対する予想を立てることで見通しをもたせ、より論理的で深い思考を促す。 自分の言葉でまとめたり、個人の考えを交流したりする機会を増やす。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 課題意識をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。また、科学に対する興味の高い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に頼らず、自分たちの手で学習を進めていくことで、学ぶ楽しさを味わわせる。 導入をより魅力あるものにし、結論から次の課題につなげたりして、児童の思考に沿った学びの連続性を意識した学習過程を展開する。

音楽	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習したことは理解できている部分が多いが、技能面においては大きく差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を有効に使用して、反復練習など行い、何度も児童に経験させる。 ・リコーダーの技能が追い付かない児童は個別に声かけをして、指導する。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いを表現したいとは思っている児童が多いが、なかなか自分の思いや意図の実現に結び付かない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師側が様々な表現例を示し、児童に多くの表現の幅を示す。 ・児童が表現できたときに、教師側が声かけをして認める。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む部分はあるが、歌唱に関しては自信がなかったり周囲を気にしたりして、声が小さくなりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱の時は小さな声でも教師が前向きな声かけをして、声を出すことに少しずつ自信をもたせていく。
図画工作	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの材料や用具についての経験を生かして安全につくることができているが、技能面では個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や道具の安全で適切な使い方を適宜確認しながら指導する。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の発想に自信をもって取りくんでいる。 ・表したいことや材料などの特徴を基に、じっくりと構成を考える力は弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発想の良さを適切な場面で評価し、自信をもたせる。 ・発想や構造が深められるように資料を準備したり、適切な場面で具体的なアドバイスをしたりする。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって取り組み、意欲的に造形活動を楽しんでいる。準備、片付けなども友達と協力して行うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より学びが深められるように、題材を吟味し、準備・声かけ等を工夫する。友達の作品を鑑賞する時間を設け、よさや美しさを感じ取れるようにする。
家庭	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験の差が大きく、知っていることや技能の習得において二極化がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> たくさん縫ったり、調理したりと活動の機会を多くしたり、振り返りを充実させたりして知識の習得や技能の向上を図る。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 生活と結びつけて考えることが難しい児童が多い。学習したことを実際に生かそうとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活や家庭での活動を振り返る際、様々な意見を聞いたり伝えたりさせて学習の深化を図る。また、自己評価力を向上させることでより正しい判断力、思考力を育むことにつなげる。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫など既習事項を生かして学習に取り組もうとするなど、作業自体には意欲的に活動する子は多いが、生活と結びつけて考える子は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の与え方を工夫し、相手を意識させた活動をさせることで、目的をもって進んで学習に取り組むことにつなげる。
体育	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の行い方が身に付いている児童が多い。 ・技能の習得には、経験による差が顕著になりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助運動を充実させるなど基礎的な動きを繰り返して行い、実感を伴う「できる」を達成させる。 ・場を工夫したり意図的・計画的な声掛けをしたりして、個の習得状況に応じた指導を行う。
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・練習を繰り返しながら、運動の行い方についての思考を深めている。 ・友達と教え合ったり、友達の動きから学んだりしている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とコツや技能のポイントなどを伝え合う機会を、メリハリをつけて設定する。 ・目標や能力に適した練習方法や場を判断できるよう、指導者が取り組み・習得の状況を把握して助言していく。
	学びに向かう力、人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・元から好きな運動、できる運動にはより意欲的に取り組む。 ・準備や片付けにも、互いに協力している。 ・苦手な運動は及び腰になる児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の目標を立てて取り組むようにする。 ・練習の計画や方法などを児童が考え、選択できるように促していく。 ・スモールステップで達成感を得られるようにする。